

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100220		
法人名	鳥取福祉会		
事業所名	グループホーム若葉台 緑の郷		
所在地	鳥取県鳥取市若葉台南4丁目2番27号		
自己評価作成日	平成21年11月5日	評価結果市町村受理日	平成21年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近隣のグループホームとのネットワークを図り、活動状況、地域交流等々の意見交換を行い、日頃の活動や日常生活等の参考にしている。また、管理者のコミュニケーションにもなっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の理念に基づき、地域密着型の意義を踏まえた独自の目標(理念)を職員みんなで作り、実践されています。 天気の良い日には、玄関や窓を開け放ち、利用者は自由に出入りされています。そして職員はそれらに常に自然な形で目を配り、見守ったり寄り添うなど、その人らしい暮らしの支援が行われています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「個々の能力に応じ、自立した日常生活が送れる第二の我が家」として、職員全員が共有し、自立支援に繋げている。	利用者の尊厳を大事にし、声かけの仕方や接し方にも気を配られています。特に、個々の能力を活かしながら、自立支援に向けたサービスを職員全員で心がけられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地域の方々にも参加して頂き、地域行事にも出来る限り参加している。	公民館や学校だけにとどまらず、地域にも広報誌を配布されています。地域の方々にも気軽に来ていただけるような交流をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方に対して、対応方法等説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況や地域との交流等の報告を行い、頂いた意見や情報はサービスに繋げている。	2ヶ月に1度開催されています。行事や日々のサービス内容についての報告が主な議題となっています。	参加者への報告にとどまらず。意見や質問をうかがったり、モニタリングをお願いするなど、双方向の会議として活用されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢社会課を中心に相談を行い、連携を図りサービスの向上に努めている。	認定更新の機会等に、市町村担当者と連携を深められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。	日常、玄関も居室も施錠は行われていません。常に職員同士で連携を取り、見守り、付き添いを行い、安全面に配慮して、日々の暮らしを支えるように努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けており、職員間に於いても見過ごされる事が無いように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、学んだ事を活かせるように努めている、また成年後見人の手続きを行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明や、サービス内容を説明し理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回程度、安心相談員が来所され、利用者の意見や要望等を聞く機会を設けている、職員も利用者の要望、意見を表出出来るよう言葉かけし、利用者の話に耳を傾けるように努めている。	「近況連絡」を毎月ご家族に送付されています。意見箱も設置し、ご家族の面会時に意見を聞くなど、積極的に取り組まれています。	率直な意見を言いにくい家族の立場を理解された上で、より積極的に要望や不満等を聞く工夫をされることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや、毎月のグループ会議で、職員の意見や提案を聞き、サービスの向上に繋げている。	月一度開催するグループ会議で職員の意見を聞き、運営に反映させています。また連絡ノートを活用したり、引継ぎやちょっとした合間を見て、コミュニケーションを取るよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により、勤勉な部分や努力を認め、個々のやる気や向上心を持って働けるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修を法人内外、または施設内外でも実施し、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回の相互研修を行っている、また今年度より近隣のグループホームとネットワークの会を発足させ、交流や意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時、本人と面談し、悩みや要望を伺っている。本人より聞き取れない情報は家族より聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂いたり、相談に来られた際、家族の悩みや、要望をしっかりと伺い、十分な説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を伺い、必要とされている事に対してできる限りの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑仕事を一緒に行う中で、出来具合や収穫を喜び合っている。また、個々の能力に応じ出来ることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事に参加して頂き、本人と一緒に過ごして頂きながら、悩みや要望を聞いている。変わったことがあれば電話連絡をし、対応などを話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々に対して、以前住んでおられた家へ帰ってみたり、お墓参りをしたりしている。また、時々友人が面会にも来られる。	利用者一人ひとりの馴染みの場所を把握し、ドライブ等で訪れたりされています。また近隣に住む友人の方々にも気軽に面会に来ていただけるよう努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく暮らしていける様に、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が表出出来るようじっくり話を聞いている。意思疎通が困難な利用者については、本人の生い立ちや家族からの希望を聞き支援している。	フェースシートを手がかりに、利用者一人ひとりの興味や関心を把握され、会話を行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に答えられる範囲で、今までの暮らしなどの情報を聞いている。サービス利用経過については担当ケアマネージャーに情報をもらい1人ひとりに合った生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況、行動、バイタルチェックを動態表や経過記録に記入し、出勤時は必ず目を通すようにしている。また、その日の勤務者で情報交換を行い、一人ひとりを把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望を聞き、職員の情報交換も行いながら介護計画を作成している。	月に一度開催されるグループ会議で、利用者一人ひとりに合わせて目標を作成し、職員全員で介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活、身体状況を記入する用紙を設けている、行動障害、特変時の詳細は経過記録に記入している、それを基にグループ会議でケアの方針や意見交換を行い、モニタリングや計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	該当なし		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各機関に広報誌を配布したり、小学校の公開授業や公民館行事には参加している。また、地域一斉清掃等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者が本人及び家族の望むかかりつけ医にかかっている。かかりつけ医と事業所も情報交換を緊密に行っている。	電話や手紙で主治医と密に連絡を取り合い、その結果を家族にも報告されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には各利用者がかかりつけ医に相談を行っている。また、隣設する特養の看護師に相談を行うこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当職員や関係職員等、なじみの職員が面会する事で安心して頂けるよう支援している。看護師、家族と密に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望、主治医、職員の意見を聞き対応している。グループホームでの生活が困難な場合には、特養若葉台及び他施設へ紹介や依頼を行っている。	現在は、看護師や医師の確保が困難なため、ターミナルケアは行われていません。ご本人やご家族には、契約時に説明し、併設する特養の紹介等を希望に合わせて行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や救急法の勉強会を実施し、職員全員が理解している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し、災害時の対応、適切な避難の仕方など勉強している。また、法人と地域との協定書がある。	地域の方々に、避難場所として交流室を提供されています。夜間等の災害に備え、日頃から併設の特養との連携を密に図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは慎重にしており、言葉かけや対応などにも気を配っている。職員同士の会話にはイニシャルを使用している。	センター方式を採用し、24時間変化シートでデータを取り、利用者一人ひとりに合った対応の仕方を常に考えられています。利用者の方の精神状態や身体の状態について、職員間で会話する時には、特に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをしたり説明をしたりしているが、外出等希望に添えない部分もあり、全員が納得した生活をされているかは、少し不安がある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切った生活はしていない。個別性のある支援を行いたいと思い働きかけてはいるが、一部を除き、集団行動的になっている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは二者選択して頂いたり、出来る方は自分で選ばれ、不具合な場合はさりげなく援助している。美容、理容は原則本人の望まれるようにしているが、大体の方は福祉理美容を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る力に合わせて一緒に調理盛り付けし、同じテーブルで一緒に食べている。片付けも、原則自分の食器は自分で洗ってもらうよう支援している。一人ひとりの状況に合わせて、小さく切って出したりしている。	メニューは、基本的に併設の特養の栄養士に任せてありますが、極力利用者の方々の希望を聞き、また庭先でバーベキューやそうめん流しを楽しんだり、年に3回程度外食に出かけるなどの支援をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量や水分量は記録に残し、水分が足りない方には、好みの飲み物やゼリー等を出している、献立は基本メニューを基に作り、利用者、職員で共に考え栄養面や個々の状態に合ったメニューにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、個々の状態に合わせて、声かけや一部介助にて徹底して行っている。義歯は週2回、義歯洗浄剤を使用し、清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげない声かけにより誘導し、失敗の減少に努めている。また、それによりパットを外す時間が増えた事例もある。	一週間の動態表を作成し、利用者一人ひとりの排泄リズムを職員全員が把握し、自立に向けた誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	快茶、牛乳、ヨーグルトを使用し、個々に応じた適切な運動に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	在宅の入浴時間に近い時間帯に、一対一で見守りを行いながらゆっくりと入浴して頂いている。	できるだけ希望に添った時間帯に入浴できる支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々状況に応じて、昼寝や休息をしたり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の用紙に目を通し、内容、用法、効能、副作用などについて理解している。また、服薬の支援と、服薬後の飲み込み確認、症状の変化の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生き立ちを把握し、本人が得意としておられた仕事をして頂いている。出来た喜びを皆で共有し、楽しく生活して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候など考慮しながら一人ひとりのその日に添った買い物、パトロール、散歩、日光浴、他施設との交流などを随時行っている。	買い物や畑等に積極的に出かけたり、歩行の困難な方はドライブに出かけるなど、希望に添った支援に努められています。また趣味や関心事を把握し、コンサートに出かけるなど、個々に対応した外出支援も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。買い物などは本人と一緒に掛付け、預かっているお金で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で年賀状を出したり、電話の要望があれば支援するよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室には花を飾り、共用の空間は不快な音や光が入らないよう、その都度調整している。	ゆったりと大きなソファが設置され、日中はほとんどの利用者が居間で過ごされています。季節の花を飾ったり、窓からの光をうまく取り込むなど、自然で寛ぎやすい空間づくりをされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々が好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具などを居室に設置し、使用していただいている。	利用者の希望に添って、畳やベッドを設置されています。家具や飾りも、使い慣れたものを使用されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた居室を用意している。(ベッド又は畳対応)		